

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	神奈川県		学校名	神奈川県立伊勢原支援学校	
人権課題	子供	対象学年・ 取り扱った教科等	訪問部 道徳	時数等	3時間
目標・人権教育のねらい	・相手を思いやり尊重する気持ち、嫌がることをしない言わない姿勢・気持ちを育む。 ・心を傷つけるような言葉について考える。				
実施した内容	・日頃よくある出来事を客観的に捉えながら善悪を判断し、相手の気持ちを考えられるようにする。 ・どのようにすればよかったか考え、ロールプレイを行う。				
工夫した点	・日頃教室でよく見られるような出来事を身近な教員が劇で演じ、参加しやすいソフトな雰囲気で行った。 ・ワークシートを簡潔にし、意見を簡単に表現できるようにした。				
他教科との 関連	・他教科での出来事を扱うことにより、その教科の授業でも再度振り返りを行うことができた。 ・学部の全教員が劇に参加し、それぞれの授業・学級と連携させている。				
事業成果	・知識的側面：客観的に善悪について考え、また相手の気持ちを理解することができた。 ・価値・態度的側面：日常の自分事として捉え、どうすればよいかを考えることができた。 ・技能的側面：相手の気持ちに気づくとともに、そういった気づきを表現することができた。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	神奈川県		学校名	神奈川県立伊勢原支援学校	
人権課題	障害者	対象学年・ 取り扱った教科等	高等部(分教室) 職業	時数等	3時間
目標・人権教育のねらい	・近隣の小学校で清掃活動を行う中で、清掃技能の習得と地域への貢献を実感することにより、自己肯定感を高める。 ・支援級の児童と清掃活動を通して交流し、お互いを知り認めあう。				
実施した内容	・火曜日と木曜日の午前中、職業の授業で小学校の清掃活動を行った。 ・学期の最終日に、支援級の児童と清掃活動を通しての交流会を実施した。				
工夫した点	・事前に児童の目線に合わせ、丁寧な言葉遣い、笑顔でほめるなど生徒たちで確認を行わせた。 ・交流会では、箒、スクイージ、モップなどの道具を手を添えながら一緒に清掃を行った。				
他教科との 関連	・清掃技能を身につけることは将来の自分の進路(就職)にもつながっていく。 - また、支援級の生徒とのかかわり方は自立活動のコミュニケーションに付随する。				
事業成果	・知識的側面: 清掃技能の向上とともに、地域への貢献を実感し、自己肯定感が高まった。 ・価値・態度的側面: 支援級の児童とのコミュニケーションが深まり、尊敬される存在になった。 ・技能的側面: 児童の目線に立って一緒に作業を行い、よい所を褒めることができた。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	神奈川県		学校名	神奈川県立伊勢原支援学校	
人権課題	アイヌの人々	対象学年・ 取り扱った教科等	分教室1・2年 美術	時数等	各学年2時間
目標・人権教育のねらい	・先住民族「アイヌ」について、歴史と文化を知り、「アイヌ文様」の作品作りを通して文化を大切に暮らしている人々を尊重する心を育てる。				
実施した内容	・北海道の地理、歴史について学ぶ。 ・「アイヌ文様」の切り絵や服のデザインに取り組み、「アイヌ」の人々が大切にしている文化に触れる。				
工夫した点	・映画や漫画などの身近な話題を導入に扱い、興味を持ちやすくした。 ・「切り絵」と「色塗り」の内容を用意し、学年ごとの得意な内容で取り組んだ。				
他教科との 関連	・既習の社会科の地理や歴史の内容から、北海道の位置や近隣の国との位置関係、歴史背景を考える。				
事業成果	・知識的側面：アイヌの人々の歴史や文化について知ることができた。 ・価値・態度的側面：文化を大切にするということについて考えることができた。 ・技能的側面：文様を通して文化の違いを知り、良さを認めることができた。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	神奈川県		学校名	神奈川県立伊勢原支援学校	
人権課題	外国人	対象学年・ 取り扱った教科等	高等部3年 特別活動(修学旅行) 他	時数等	15時間
目標・人権教育のねらい	・見たり食べたりする体験から、外国に関する興味・関心を広げる。 ・体験学習から他教科へ広げ、文化やコミュニケーションなど、お互いを認め合う態度を育てる。				
実施した内容	・修学旅行で野外民族博物館に行き、サーカスを見たり、各国の名産物を食べたりした。 ・修学旅行の事前学習で世界のあいさつを実践したり、名産物について調べたりした。				
工夫した点	・事前学習でどの国を見学・体験するかを考える場を設定し、自主的に調べるように促した。 ・実際に見たり食べたりする体験の機会をつくり、体験から考えられるように設定した。				
他教科との 関連	・音楽の授業でサンバを取り上げ、合奏を行い、学習発表会で発表した。 ・社会で時事問題に取り組み、スポーツの世界大会などについて調べ学習を行った。				
事業成果	・知識的側面：外国の食べ物や音楽について知ることができた。 ・価値・態度的側面：体験から“外国”に関する授業に意欲的に取り組む姿が見られた。 ・技能的側面：日本と同じところや違うところを見つけ、良さを認めることができた。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	神奈川県		学校名	神奈川県立伊勢原支援学校	
人権課題	ハンセン病患者等	対象学年・ 取り扱った教科等	高等部2年(分教室) 社会	時数等	3時間
目標・人権教育のねらい	・さまざまな障害や病気のある人たちの状況や社会的な課題を知り、互いに社会の一員として相手を思いやり、共に生きていこうとする気持ちを育てる。				
実施した内容	・ハンセン病患者が受けてきた差別の歴史やハンセン病そのものについて、自分や自分の家族が対象だったらどうするかについて考えたり、国立ハンセン病資料館の学芸員の話の聞いたりして考えられるようにした。				
工夫した点	・教職員研修として国立ハンセン病資料館とオンラインでつなぎ、学芸員に講演をしていただいた。教職員の研修会事前事後アンケートから授業内容に活かせるアイデアを集め、単元計画を作成した。 ・自分や自分の身近な人が病気にかかって差別を受けたらどう感じるかについてのワークシートを使用したり、より実感をもって話を聞くことができるように国立ハンセン病資料館の学芸員に来校して講話をしてもらうことにした。また、より身近な出来事としてコロナ禍で起きた事柄を取り上げた。				
他教科との 関連	・国が行ってきた政策の歴史的な背景を知ることが社会科歴史につながる部分である。また、コロナ禍で起きた差別について考えることは社会生活スキルとして自立活動につながる。				
事業成果	・知識的側面：ハンセン病患者の受けた差別や歴史、現在に続く差別について知ることができた。 ・価値・態度的側面：自分や身近な人のこととして捉え、どのようにすればよいか考えることができた。 ・技能的側面：ハンセン病患者の受けた差別の歴史的背景を知り、気持ちや思いに気づくことができた。				

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市名	神奈川県		学校名	神奈川県立伊勢原支援学校	
人権課題	インターネットによる 人権侵害	対象学年・ 取り扱った教科等	高等部1～3年:特別の教科道徳/自立活動 分教室1～3年:総合的な探求の時間		時数等 2時間
目標・人権教育のねらい	・SNSについて、自身の安全やプライバシーを守る利用法を学ぶ。 ・公共の場でスマートフォンや携帯電話を利用する場合のマナーについて学ぶ。 ・いじめ等のトラブルに巻き込まれないための情報モラルを身に付ける。				
実施した内容	・KDDIケータイ・スマホ安全教室(中級編)を視聴し、「①インターネット上での投こう」「②SNSやゲームへの依存」「③SNS等でのトラブル」「④トラブルにあった時の対応」について意見交換し、生徒向けアンケートに記入した。				
工夫した点	・視聴した内容を忘れないよう、動画の場面が切り替わるたびに一時停止し、理解できていることをアンケートに書き込むための時間を設けた。 ・後日行った事後学習で、アンケートに書き込んだ意見を生徒同士で共有し、理解を深める機会を設けた。				
他教科との 関連	・社会科や国語科では、「身近な社会生活」や「言葉の選び方」を題材にして、コミュニケーションや対人関係に対する理解を深めた。				
事業成果	・知識的側面:スマホ等の安全な活用法やルールとマナーについて理解することができた。 ・価値・態度的側面:スマホ等のトラブル防止とその解決方法について考える生徒が増えた。 ・技能的側面:スマホ等の適切な使用に向けて、相手の立場に立って物事を考えられるようになった。				